

林業試験場の20周年を迎えて

渡 辺 啓 吾

本日は当場の20周年を記念して集いをもちましたところ、坂本林務部長・先輩場長をはじめ皆様にはご多用中にもかかわらずご出席をいただきましてありがとうございます。

ご案内のように

当場の前身は、林木育種事業のために昭和32年に設けられました岩見沢林務署光珠内事業所で、これが4年後に北海道光珠内林木育種場となり、7年後にいまの名



称となり、発足より数えて今年で20周年を迎えることになりました。当初7名の職員で発足した事業所が、いまは職員73名の4部1室3支場からなる試験場に発展しました。20年といえは成人のときであり、これからが働きざかりで、このように大きく育てて下さった道民各位にこれから一層よく働いてお返しをしなければならぬと痛感しております。

かえりみますと当場が道有林の事業所から始まったことが、その後の発展に非常に有意義であったと思われます。林業経営の模範を示す道有林が、新しい機関を設けて育種事業を起し、精英樹を選抜し、採種園を造成し、導入樹種の試験を行なったのでありますが、こうした基盤のうえにたつてこそ一般会計による林業試験場が生れることができたわけであります。たとえば当場の苗畑・実験林は岩見沢林務署長さんからお借りしているものであり、当場が道内308カ所に設けている試験地も、ほとんどが道有林のお世話になっているものであります。この機会に道有林関係各位に厚くお礼を申しあげ、今後のご支援をお願い申しあげる次第であります。

試験場になって13年になりますが、試験研究への要望は多岐にわたり、これに応じて支場を設け、部科を増設するなど機構も整備され、林業のみならず生活環境についての研究も行なうようになりました。最近は行政からの委託研究も増えておりますが、このことは実用的技術開発を望まれる道立機関として重要な方向でありますので、今後一層のご指導をお願い申しあげる次第であります。

研究成果とその普及については「林業試験場の20年」にまとめてありますが、職員による文

献は当场発行誌以外のものも含めて723編となっております。当场では北海道林業試験場報告を年1回、光珠内季報を年4回発行しており、これらの発行累計は46号約3万冊となります。見学者は年々ふえて本年では本支場合わせて7千人ほどになります。いうまでもなく当场は税金で運営されておりますが、その額は道民一人あたりにして年間70円という大きなものであります。育成林業の研究は長期を要するため、毎年、成果を還元するわけにはいきませんが、成果の普及については今後一層工夫して参らねばならぬと思います。たとえば展示室を充実して一般向けの講座をおこすとか、場主催の研究成果の発表会をもつことも考えられます。

さて20周年にあたり佐川前場長のおりに記念事業が計画されました。すなわち「林業試験場の20年」(沿革・研究経過・文献目録・試験地要覧)および「樹木目録」の出版、展示室整備、記念植樹(構内にカラマツ見本林造成・美唄市に故横山八郎初代場長の開発したパラソルアカシア贈呈)、林務部報「林」特集(先輩の寄稿)および「記念の集い」(林務部幹部、元場長、作業員、場員)であります。途中で場長はじめ幹部の異動がありましたが、幸いに本庁各課、林産試験場、先輩各位のご支援と二年越しの場員一同のご努力によりまして計画が達成されました。関係各位に厚くお礼申しあげます。

本日は記念事業のしめくくりの集いではありますが、特に関係の深い各位から、ごあいさつやご懇談を通じてご指導をいただけることは場員にとってまことに有意義でありがたいことでもあります。本来ならば20年の間にお世話になりました各方面の方々、また旧職員の方々(75名、うち2名死去)にもお集りいただきたいところでしたが、このたびは「20年」誌を送らせていただくことにしました。

最後になりましたが、当场の100haの苗畑・実験林を手入れしていただいている作業員の方々には、毎年ご苦労さまですが、おかげで研究も順調にすすめることができ、きれいな環境もつくっていただいております。本日は長年勤務された方々(千葉フヨ、黒木文子、八巻ヲキノさん)に堂垣内知事が感謝状をさしあげたいとのことであります。どうがお受取りのうえ、今後とも当场の発展にご協力下さいますようお願い申しあげる次第です。

* 本文は昭和52年10月28日当场研修所講堂で開催された当场の「20周年記念の集い」における場長のあいさつです。